

目次

■まえがき	1
■編集方針・凡例	2

1-16 人造磁塊の地震予知器に関する書簡	53
1-17 蝦夷地実験ノ極略	54

序章 総説

§ 1 地球・宇宙科学の分野と本巻の内容	11
§ 2 地球・宇宙科学の性格と本巻の目標	12
§ 3 時代区分と本巻の構成	13
§ 4 近代日本における天文学の歩み	15
§ 5 近代日本における気象学の歩み	17
§ 6 近代日本における地質学等の歩み	18

第1章 幕末における天文学と地文学

*資料

1-1 渋川景佑の伝	26
1-2 万国普通曆	28
1-3 談天	31
1-4 土御門家の活動状況	33
1-5 鎚地球説略	35
1-6 靈憲候簿——近代的な気象観測の始まり	38
1-7 渡来外人による気象観測	40
1-8 颶風新話——日本における最初の気象学専門訳書	40
1-9 種まき鑑	42
1-10 乙卯晴雨考	43
1-11 地殻図説・地質弁証・密涅刺羅義・日阿羅義名目	44
1-12 輿地航海図	50
1-13 地球儀用法	50
1-14 『地学初歩』と『万国地学和解』——外国地理書の復刻と翻訳	52
1-15 地震預防説	52

第2章 天文曆道から近代天文学へ

*資料

2-1 天文方之儀ニ付言上書	62
2-2 足立左内建言	64
2-3 間家観測の終熄	64
2-4 浅草天文台の廢絶	65
2-5 土御門家の復興	65
2-6 天文曆道願書	66
2-7 拝命之記	67
2-8 市川斎宮の改曆案	69
2-9 大木喬任書状	71
2-10 塚本明毅の改曆建白書	71
2-11 太陽曆改曆詔書	72
2-12 陰曆合載のこと	72
2-13 両曆使用取調書	75
2-14 天文観測器具の輸入	76
2-15 司天台ノ設立ニ干スル報告書	77
2-16 編曆関係簿	78
2-17 東京大学における天文学	79
2-18 金星過日	80
2-19 明治20年8月19日の皆既日食観測	82
2-20 緯度変化観測に関するフェルステルの問合せ文	82
2-21 日本に於ける国際共同緯度変化事業のための観測所位置選定に就いて	84
2-22 木村栄のZ項発見	88

第3章 富源防災調査研究体制の成立

*資料

3-1 民部省地理司事務章程	98
----------------	----

3-2	石版・画術・地図製法に関する技術 伝習始末書……………	99
3-3	工部省測量司の東京府下測量……………	100
3-4	本邦三角測量ノ実況……………	102
3-5	地理局量地課ニ於テ司天編曆ノ事務 ヲ管ス……………	105
3-6	日本ノ地学程度……………	105
3-7	陸地測量部測量事業沿革之概略（自 明治七年至明治十六年）……………	108
3-8	測地概則小地測量ノ部……………	110
3-9	日本油田調査第二年報……………	113
3-10	内地地質調査施行之主意……………	118
3-11	地質調査施行之趣旨……………	119
3-12	明治十三年分析所年報……………	120
3-13	鑿力観測記事……………	121
3-14	地質局事業十年間の功程……………	122
3-15	東京大学理学部地質学科課程・試業 問題……………	123
3-16	地学会会名ノ縁由……………	126
3-17	東京地学協会創立記事……………	126
3-18	東京地質学会の創立と『地質学雑誌』 発行の趣旨……………	129
3-19	地震学会における演述……………	131
3-20	震災予防ニ関スル問題講究ノ為メ地 震取調局ヲ設置シ若クハ取調委員ヲ 組織スルノ建議案……………	137
3-21	震災予防調査会調査事業概略……………	139

第4章 科学的地学の形成過程…………… 143

*資料

4-1	日本珠玉琢磨法……………	147
4-2	東京近傍地質編……………	148
4-3	東京および富士山頂における重力の 測定……………	152
4-4	水平動験測ニ用ユル新案地震計……………	153
4-5	本邦金石略誌……………	154
4-6	明治十四年 第二回内国勸業博覧会報告書 （第二区十四類其五下）地質学諸品……………	155
4-7	地層褶起ノ説……………	156
4-8	米国地質測量記事……………	158
4-9	地震動ノ性質ヲ示ス雛形……………	161
4-10	万国地質学会議……………	163
4-11	「火山噴火調」論争……………	164
4-12	「朝鮮国地質概要」とその批判……………	168

4-13	ライマン説をめぐる論争……………	170
4-14	東京帝国大学地質学教室卒業論文及 進級論文……………	174
4-15	福島県吾妻岳近傍大噴裂報告……………	176
4-16	菊池安が帝国大学紀要に載せた論文 要旨……………	178
4-17	矢津氏編纂日本地文学……………	179
4-18	金州附近及関東半島地質土性調査報 文……………	181
4-19	鞍山鉄鉱発見記……………	182
4-20	間宮林蔵東鞆行一百年紀念の会……………	185
4-21	地震ノ強弱ヲ示ス一定ノ標準ヲ設ク ル事……………	186
4-22	地震ノ初期微動ニ就キテ……………	192
4-23	東京大地震の警告……………	194

第5章 明治期の気象・海洋関係の事 業と研究…………… 197

*資料

5-1	気象事業創立期事情についての桜井 勉の演説……………	209
5-2	わが国気象界の黎明……………	210
5-3	工部省鉱山寮における気象観測……………	212
5-4	観象台における気象観測……………	212
5-5	本邦天気予報事業の今昔……………	213
5-6	天気図と気象電報……………	214
5-7	初期の天気図……………	215
5-8	時事新報の予報画……………	215
5-9	初期水路部沿革史抄……………	219
5-10	海図第1号……………	221
5-11	東京気象学会の創立……………	221
5-12	水路学会沿革……………	225
5-13	中央気象台の世界博覧会出品物……………	226
5-14	地方測候所明治25年度経費予算……………	229
5-15	日本気象論……………	230
5-16	日本近海颶風論……………	232
5-17	北尾先生の颶風論……………	234
5-18	数日間連続セル天気ニ就テ……………	235
5-19	富士山頂の気象観測をした人々……………	236
5-20	梅雨論争……………	238
5-21	梅雨の説……………	242

第6章 大正期の気象・海洋関係事業
の発展と研究 245

*資料

6-1 海の物理学..... 253
 6-2 柿岡地磁気観測所..... 253
 6-3 瓶のゆくへ..... 255
 6-4 森林測候所の当初はどんな風に計画
され、どんな機構のもとに出発した
か..... 257
 6-5 測候所思い出話..... 259
 6-6 桜島噴火予知についての論争..... 261
 6-7 故伏木測候所長大森虎之助君をしの
びて..... 264
 6-8 海洋気象台の創立時代記..... 266
 6-9 高層気象台の創立..... 267
 6-10 現象の奥がを見つめる人——ノルウ
ェー学派の生い立ち..... 270
 6-11 気象技術官養成所の創立..... 273
 6-12 理学博士藤原咲平君の「音の異常伝
播の研究」に対する授賞審査要旨..... 274
 6-13 稲作豊凶問題の決論..... 275
 6-14 気象学上の問題に群 (Group) の概
念を応用する事の可能性について..... 277
 6-15 渦巻の研究..... 278
 6-16 堀口由己君著「極東颱風論」に対す
る授賞審査要旨..... 280

第7章 日本列島の歴史学 283

*資料

7-1 富士及八ヶ岳両火山ノ記..... 290
 7-2 日本地質構造論..... 291
 7-3 四国山地の地質..... 294
 7-4 日本ノ火山..... 295
 7-5 西南日本地質構造概観..... 297
 7-6 黒鉱の成因について..... 298
 7-7 氷河果して本邦に存在せざりしか..... 299
 7-8 日本ノ洪積統..... 302
 7-9 日本山岳会の成立..... 302
 7-10 日本の洪積世..... 304
 7-11 プライストン世に於ける日本の気
候に就て..... 305

7-12 日本のカール..... 306
 7-13 氷河問題の講演会..... 306
 7-14 秋吉台石灰岩を含む所謂上部秩父古
生層の層位的研究..... 308
 7-15 比較構造論より見たる佐川造山輪廻... 309
 7-16 断層地形の研究..... 312
 7-17 地塊の活傾動..... 314
 7-18 地形と貝塚分布より見たる関東低地
の旧海岸線..... 315
 7-19 日本群島の現在の形と山の隆起性..... 317
 7-20 呂号第五十七潜水艦に拠る日本海溝
上の重力測定..... 320
 7-21 我国の垂直線偏倚に就いて..... 322

第8章 近代天文学の歩み..... 325

*資料

8-1 日本天文学会の発足と『天文月報』
の発刊..... 330
 8-2 天文同好会の発足と『天界』の
発刊..... 330
 8-3 麻布天文台..... 332
 8-4 東京天文台の移転..... 334
 8-5 三鷹天文台の創設..... 335
 8-6 東京天文台の65cm赤道儀..... 340
 8-7 水沢緯度観測所、中央局となる..... 343
 8-8 花山天文台..... 346
 8-9 倉敷天文台..... 348
 8-10 紫金山天文台..... 349
 8-11 日本の光学工業..... 351
 8-12 日本における反射望遠鏡の歴史..... 353
 8-13 平山清次の小惑星の「族」の発見..... 354
 8-14 新城新蔵の東洋天文学史研究..... 355
 8-15 万国共同経度測量——東京天文台の
戦前における国際協同観測の一例..... 356
 8-16 日本人による新天体の発見..... 357

第9章 地学諸部門の分化・発展 359

*資料

9-1 地球学団の結成と『地球』の発刊..... 363
 9-2 『地理学評論』巻頭言——日本地理学
会の創立..... 364
 9-3 別府地球物理研究所開所式に於ける

	謝辞(深発地震存在の提唱)……………	365
9-4	『岩石礦物礦床学』創刊の辞……………	367
9-5	東京大学地震研究所の創設……………	368
9-6	日本火山学会創立の計画に就いて……………	368
9-7	陸地測量部業務概要(大正三年)……………	370
9-8	朝鮮土地調査事業報告……………	370
9-9	本邦測量作業に於ける基線測量の総 覧……………	372
9-10	航空写真の測量による地図作成の発 展……………	374
9-11	明治四十三年度鉱物調査ノ概要……………	377
9-12	工業原料用鉱物調査報告……………	377
9-13	支那地学調査報告(序文)……………	378
9-14	鉄道省土質調査委員会設定の挨拶……………	378
9-15	朝鮮に於ける地質及鉱物資源調査治 革……………	379
9-16	台湾産有孔虫研究史略……………	382
9-17	南滿州鉄道株式会社地質調査所の業 績……………	387
9-18	滿洲国内に於いて最近化石を利用し 鉱床を発見したる2,3の実例に就て……………	388
9-19	内蒙古渾善達克砂丘地帯の地理学的 調査……………	390
9-20	南洋群島に於ける燐鉱の堆積型とそ の分布……………	392
9-21	火成岩成因研究の一方法……………	396
9-22	理学博士伊藤貞市君の「珪酸塩結晶 構造の研究」に対する授賞審査要旨……………	399
9-23	東洋産含稀元素鉱石の化学的研究……………	399
9-24	内陸・深海・深層地震の比較……………	401
9-25	水晶傾斜計と其の観測結果……………	403
9-26	『地学辞典』序……………	406

第10章 大戦までの気象事業と気象学

および海洋学…………… 407

*資料

10-1	気象台の予算……………	415
10-2	第2国際極年における日本の役割……………	417
10-3	富士山測候所の創業当時……………	418
10-4	日本のラジオゾンデの歴史……………	420
10-5	昭和九年十月二十九日—三十一日 第二十九回臨時気象 協議会会議録……………	425
10-6	『天気と気候』創刊の辞……………	428

10-7	東北凶冷の予想に関する研究……………	428
10-8	気象観測法の沿革……………	429
10-9	地方測候所の国営移管……………	434
10-10	雷雨特別観測……………	435
10-11	理学博士小倉伸吉君の「瀬戸内海の 潮汐及潮流に関する研究」に対する 授賞審査要旨……………	438
10-12	黒潮異変……………	439
10-13	凌風丸の動静……………	440
10-14	『海洋の科学』創刊の辞……………	441
10-15	西村伝三による日本の雨の研究……………	442
10-16	理学博士伯爵阿部正直君の「山雲及 山の気流に関する研究」に対する授 賞審査要旨……………	442
10-17	日本付近に於ける各気塊の特性……………	444
10-18	不知火の研究……………	445
10-19	理学博士中谷宇吉郎君の「雪に関す る研究」に対する授賞審査要旨……………	446
10-20	動気候学……………	447
10-21	霜柱の研究……………	448

第11章 太平洋戦争と天文・地学…………… 451

*資料

11-1	『新城博士記念天文・宇宙物理学彙 報』創刊の辞……………	455
11-2	「天体位置表」に関する往復文書……………	457
11-3	新秩序建設と新東亜曆……………	458
11-4	電離層研究特別委員会創立のころ……………	459
11-5	ジャワにおける天文観測……………	460
11-6	理学博士正野重方君の「大気擾乱の 研究」に対する授賞審査要旨……………	460
11-7	戦争中における天気予報の進歩……………	462
11-8	南方気候論内容梗概……………	469
11-9	風船爆弾の気象学的原理……………	465
11-10	昭和20年の気象台……………	466
11-11	標準海水採水日記……………	468
11-12	地質調査所職員海外活動一覽表……………	469
11-13	日本学術振興会第21(東亜地質地理) 小委員会研究概要……………	469
11-14	太平洋の大地形構造……………	473
11-15	興亜地学論……………	474
11-16	ハルマヘラ島探検談……………	475
11-17	戦時中の天文学研究の概観……………	476

第12章 戦後の主として気象学・気象
事業の発展 481

*資料

12-1 台風の名前..... 487

12-2 新日本の気象業務の在り方——特に民主化について..... 488

12-3 産業気象研究所というものがあつたころ..... 489

12-4 『仙台管区気象台長期予報研究会報』創刊の辞..... 490

12-5 中央気象台気象研究所研究成果一覧表..... 491

12-6 ラヂオ気象通報輿論調査報告——昭和21年6月1日気象記念日における..... 493

12-7 梅雨論の展開と降雨のシノプチック解析..... 495

12-8 トラフ検討会報告..... 496

12-9 明日の経営指針, ウェザー・サービス——商業天気予報の解説..... 497

12-10 水爆実験と死の灰..... 497

12-11 ユネスコ・台風シンポジウム..... 499

12-12 第二次大戦後欧米気象学はどのように輸入されたか..... 500

12-13 日本の気象の諸断面——気象台から気象庁へ..... 501

12-14 IGYにおける観測と成果..... 507

12-15 菅原健君の「水による物質移動循環機構の地球化学的研究」に対する授賞審査要旨..... 509

12-16 伊勢湾台風..... 510

12-17 防災気象業務の展望..... 518

12-18 数値予報..... 519

12-19 メゾ気象の発展——藤田哲也の研究..... 521

12-20 日本の雪氷学と中谷宇吉郎先生..... 522

12-21 臨床的気象庁論..... 524

12-22 人工降雨..... 527

第13章 地球科学への再編成 529

*資料

13-1 国土地理院の戦後の再発足にともなうG・H・Q命令..... 536

13-2 日本地質学会と地学団体研究会の設

立..... 537

13-3 新制大学一般教育の地学教案..... 542

13-4 地質学者の研究費配分問題..... 543

13-5 戦後の新学会の創立..... 544

13-6 浅間山米軍演習地化に対する反対運動..... 547

13-7 核原料資源の開発——原子燃料公社と人形峠..... 548

13-8 日本鉱物誌..... 550

13-9 古生物学論争..... 553

13-10 久野久の「火成岩成因論最近の動向」に対する牛来正夫の批判..... 555

13-11 地震予知説と新潟地震..... 558

13-12 新しい鉱物学への再結晶..... 562

13-13 国土の監視者・地質調査所..... 564

13-14 南極の地形・地点の命名..... 566

13-15 再編成をいそぐ地球科学..... 568

13-16 最近における日本のウラン鉱床..... 569

13-17 戦後の自然地理・地形学と表層地質学..... 573

13-18 地学(大学程度)の教育内容を調査する委員会の報告..... 576

第14章 宇宙時代の展開 577

*資料

14-1 天体の位置観測に現われる局地性..... 579

14-2 東京天文台の調布飛行場設置反対運動..... 580

14-3 電波天文学の進歩をたどって..... 581

14-4 藤田良雄君の「低温度星の分光学的研究」に対する学士院恩賜賞の授賞審査要旨..... 582

14-5 天文台復興の芽生え..... 584

14-6 東京プラネタリウム設立促進について..... 586

14-7 南極大陸における夜光及び極光の観測..... 587

14-8 日本における人工衛星観測網..... 588

14-9 乗鞍コロナ観測所10周年を迎えて..... 590

14-10 高等学校の地学教育..... 591

14-11 日本天文研究会15年の歩み..... 593

14-12 岡山天体物理観測所の開設..... 594

14-13 国際極運動観測事業について..... 596

14-14 60年間の思い出から..... 598

14-15	天文時系とともに40年……………	599
14-16	本田彗星の発見……………	600
14-17	人工衛星の運動から求めた地球の形…	601
14-18	前山君の業績——日本暦法史家のお もかげ……………	602
14-19	星の進化から銀河の進化へ……………	603

15-2	74時に期待すること……………	611
15-3	宇宙開発推進の基本方策……………	613
15-4	大気圏外をゆく気象台……………	615
15-5	地震予知研究計画……………	617
15-6	国際地球内部開発計画……………	619
15-7	固体地球科学研究所(仮称)計画意見 書……………	621
15-8	私の夢……………	623

**第15章 地球・宇宙科学における将来
計画 …………… 607**

***資料**

15-1	各学会の長期計画についての調査……	609
------	-------------------	-----

■年	表……………	625
■参考文献目録	……………	642
■索引	……………	651

